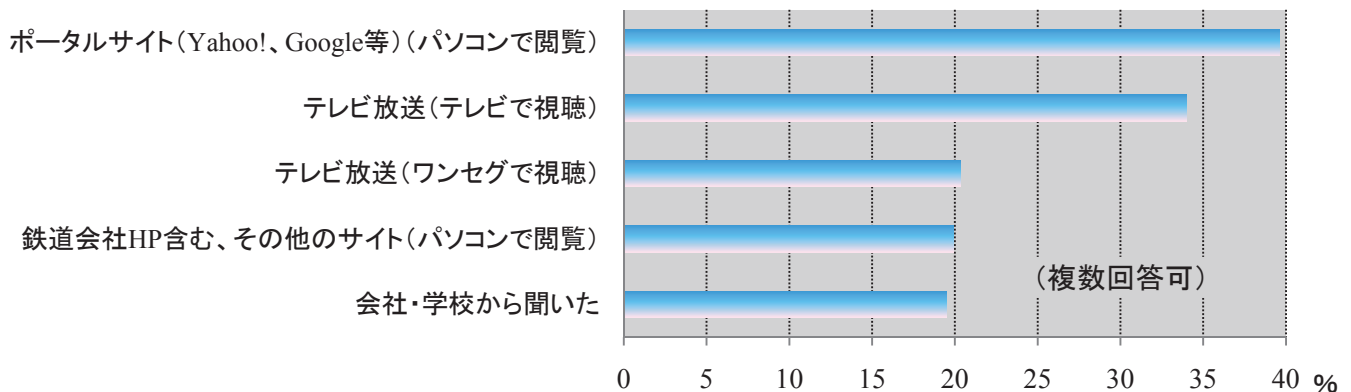


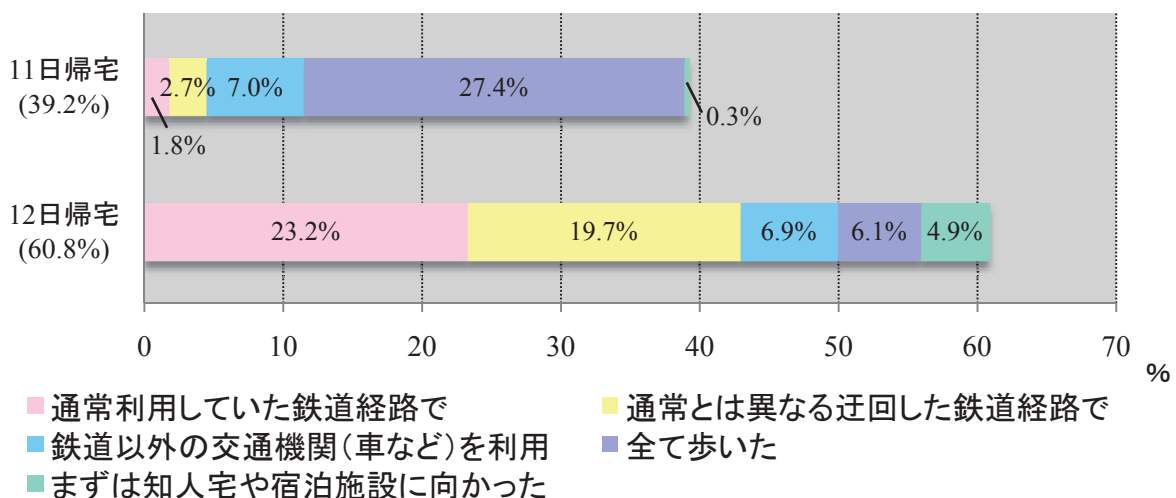
大震災発生時の鉄道通勤・通学者の帰宅行動調査

【概要】

3月11日14時48分頃に起きた東日本大震災により、首都圏では多くの帰宅困難者が発生しました。そこで、震災前から鉄道を利用して東京23区内に通勤、通学をしていた方々に対して、震災当日、鉄道の運行情報を何で得たのか、移動手段やその経路はどうだったのか、それらの行動の判断理由は何か、などの帰宅行動の詳細について、インターネットを用いたアンケート（960名から有効回答）にて調査を行いました。



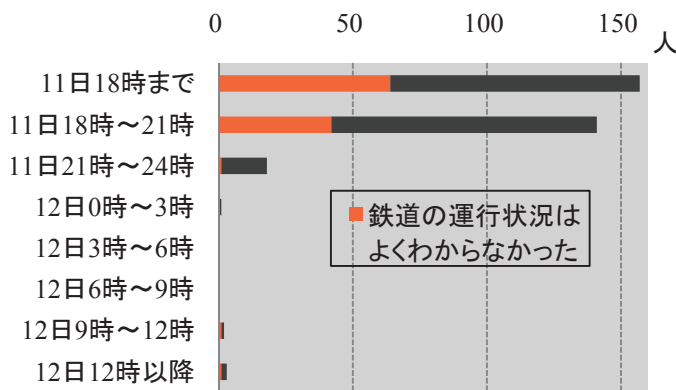
鉄道会社の運行情報を何で得たか(上位5位まで)



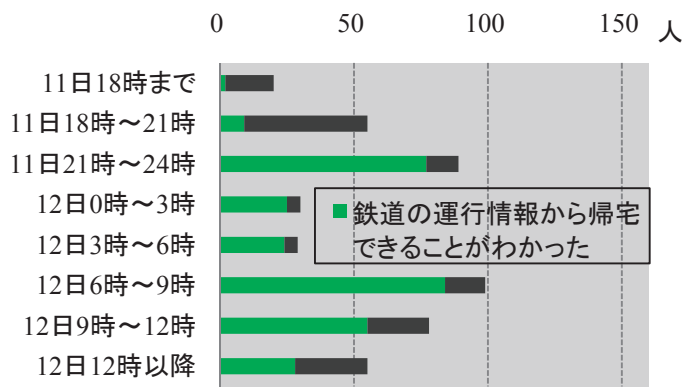
帰宅した日(帰着日)と帰宅方法(移動手段など)

【特徴】

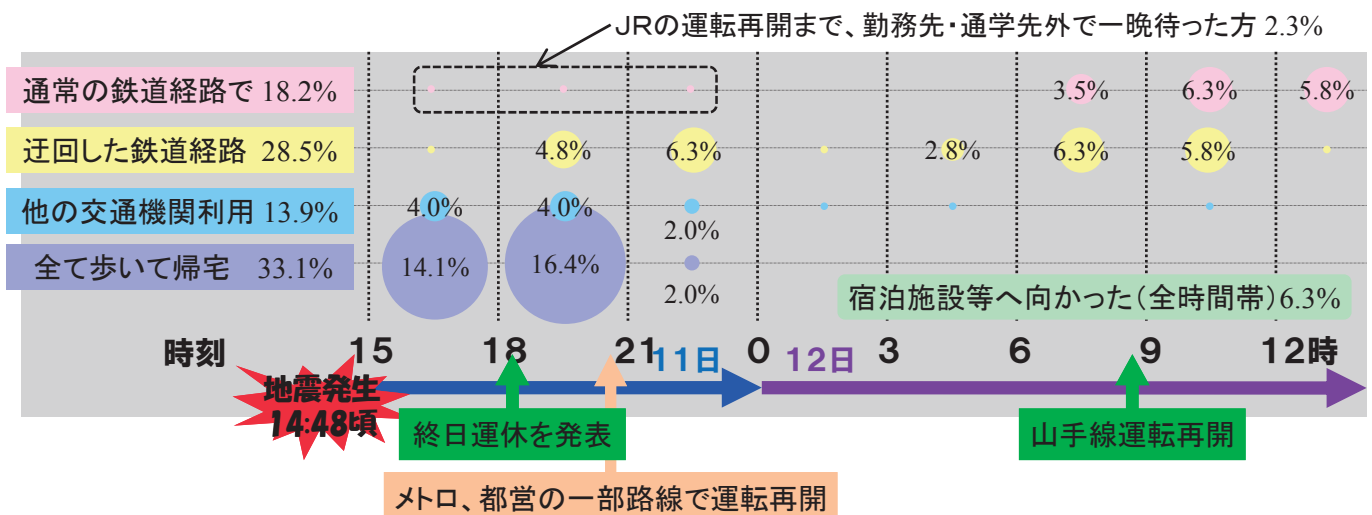
- ◆ご利用を予定していた鉄道会社の運行情報をパソコンのインターネットやワンセグを含むテレビ放送で得た方が多かったようです。
- ◆震災発生当日の11日中に帰宅できた方は39%で、そのうちの70%が徒歩で帰宅しました。



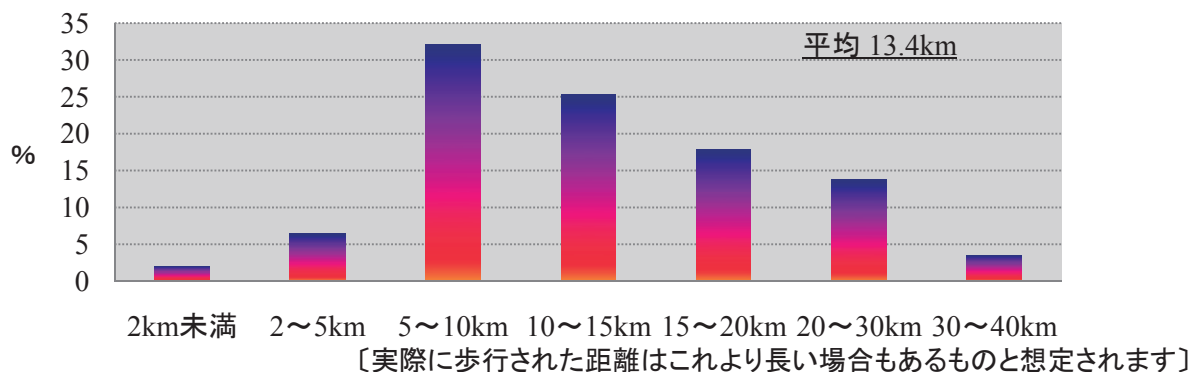
徒歩帰宅者(322名)における帰宅のために勤務先・通学先を出た時刻



鉄道帰宅者(455名)における帰宅のために勤務先・通学先を出た時刻



主にJR線で通勤・通学していた方(396名)で、勤務先・通学先を出た時刻と帰宅方法



徒歩帰宅者(322名)における勤務先・通学先から自宅までの道路距離

【特徴】

- ◆ 徒歩帰宅者では11日21時までに出た方が大勢で、その36%が「鉄道の運行状況はよくわからなかった」ようです。
- ◆ 鉄道帰宅者(迂回を含む)では11日21時以降に出た方が多く、その77%が鉄道の運行情報を参考にしています。
- ◆ 主にJR線で通勤・通学していた方では、11日21時までは徒歩での帰宅、その後のJR線運転再開までは他社線への迂回が多いようです。
- ◆ 徒歩帰宅者の60%は、自宅までの道路距離が10km以上でした。